

令和5年度 ASEAN向け AJEEP Scheme 4第1回オンラインワークショップを実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、資源エネルギー庁の委託を受けて、令和5年度のASEANに対する省エネ人材育成事業のAJEEP Scheme 4 プログラムの第三弾として令和6年1月24日（水）、ASEAN10カ国政府の省エネ政策・制度関係者を対象に、ASEANのエネルギー管理士の共通標準研修プログラム他に関する第1回オンラインワークショップを開催しました。



1. 目的：昨年度より開始したAJEEP Scheme 4は、ASEANの共通標準研修プログラム(Common Standard Module: CSM)を策定し、SAEMAS(持続的ASEANエネルギー管理士認証システム)を構築する為の技術支援を実施するものです。2年目の今年度はCSMの中身の確定・作成や先進的科目(Advanced Module: AM)の骨格案や相互認証協定(Mutual Recognition Arrangement: MRA)ガイドライン案を作成する計画です。そのために、10月に3回に亘る関係5カ国の訪問と11月に招聘研修ECAP30を実施し、それらの結果を踏まえて更なる検討・進捗を交換・共有すべく各国の政策担当者他からなるワーキンググループ(WG)によるワークショップ(WS)を2回開催する計画で、今回第1回目のWSをオンラインで開催しました。ここではECAP30で討議したCSMに関する研修内容や運用の見直しと今後のEMP(エネルギー管理プロ)他の選定計画の提案・討議を行うと共に、AMの構成見直し案、並びにMRA ガイドラインの検討内容の共有を図りました。
2. WS出席者：参加者は、WGメンバーとしてASEAN各国から政策担当者を中心に12名、ACE(ASEAN Centre for Energy)から6名の合計18名が、またECCJからは10名が参加しました。
3. WS概要と結果：
 - (1) CSMではテキスト中身の最終化に向けた取り組み状況と評価基準の見直し提案・討議
 - (2) ECAP30での討議を踏まえたCSMの運用に関する課題の抽出と討議
 - (3) EMP(エネルギー管理プロ)他の認定促進計画と討議
 - (4) AMの構成見直し案とMRAガイドライン案の共有と討議
 - (5) 活発な議論・意見の交換があり今後反映する方向で検討する予定
 - (6) 次回2月22日の第2回WSで上記内容を更に練り直し討議の上、最終化する予定

* ECAP : Energy Conservation Workshop under AJEEP (ASEAN-JAPAN Energy Efficiency Partnership)
ASEAN-日本エネルギー効率パートナーシップのもとに実施される受入研修

* EMP: Energy Management Professional ; ASEAN地域に新たに設定するエネルギー管理プロ資格